

# 両墓制の分布についての覚書

新 谷 尚 紀

## はじめに

- 一 分布の概要
- 二 旧墓と新墓
- 両墓制関係文献目録

## 論文要旨

両墓制の分布は、近畿地方に濃密で、東日本や西日本では、限られた地域に部分的な分布がみられるにすぎない。本稿は、この特徴的な分布が何を意味するのか、という問題に迫るために第一歩としてまとめたものである。

まず、これまでの研究成果を文献目録として整理し、それにもとづいて、両墓制の分布の実態の把握にとめた。また、これまでに作成されている両墓制関係の分布図も、この場をかりて紹介することとした。そして、近畿地方こそ両墓制の成立と展開の上での中心的な地帯であったこと、そして、この近畿地方を中心とする分布圏には、中央部から周縁部へむかっての伝播、拡大という現象がうかがえるということ、その分布圏は、両墓制という一つの民俗事象を共有するかたちで歴史的に形成された一定の範囲としてとらえることができるということを指摘した。

また、東日本や西日本の限られた地域にみられる部分的な分布に対しては、両墓の呼称を共有する近畿地方の諸事例との間に何らかの関係があるのでないかと推定し、近畿地方からの伝播の可能性を指摘した。

次に、両墓制の分布の問題を論じる上で注意すべき点として、成立の背景の異なる事例を混入させとはならないことをのべ、明治の墓地条例にもとづく行政の関与によって、一見、両墓制的なかたちをとった特殊なケースについて整理した。具体的には、静岡県磐田郡佐久間町福沢の事例をとりあげ、昭和四十八年の調査時点での古老からの聞書について、それを裏付けると思われる史料を検討した。そして、昭和六十二年に再度、調査し、土葬から火葬への移行、石塔造立の増加の様子を確認した。